

令和8年度第1回室戸市総合教育会議議事録

1. 日 時 令和8年8月21日（金）午後3時15分～

2. 場 所 室戸市役所3階第6会議室

3. 出席者

（構成員）

室戸市長 植田壯一郎

室戸市教育委員会

教育長 百田貴昌

教育委員 和泉久美子

教育委員 植野真由美

教育委員 佃美保

教育委員 川島一之

（オブザーバー）

副市長 黒岩道宏

総務課長 濱田 亮士

こども子育て支援課長 辻さおり

（事務局）

学校教育課

課長 松下 善徳（教育次長）

主監 田川 真由美

課長補佐 祝真紀

班長 川口 遥

生涯学習課

課長 正木 徹

4. 欠席委員 なし

5. 議事

(1) 室戸市教育振興基本計画における令和7年度事業実施計画について

(2) 協議事項

① 令和8年度全国学力・学習状況調査結果について

② 不登校の現状について

③ 学校給食センターの再編について

④ 放課後子ども教室について

6. その他

（進行）

ただいまより令和8年度第1回の総合教育会議を開催いたします。

最初に室戸市長より開会の挨拶をさせていただきます。

(植田市長)

(挨拶)

(司会)

室戸市総合教育会議の構成員は、市長及び教育委員会と規定されております。

本日はオブザーバーとして、黒岩副市長、濱田総務課長、辻こども子育て支援課長にご出席をいただいております。

それでは、議事に入ります。(1) 室戸市教育振興基本計画における令和8年度事業実施計画について、事務局より説明をお願いします。

(松下教育次長兼学校教育課長)

(資料に沿って説明)

(正木生涯学習課長)

(資料に沿って説明)

(進行)

事務局からの説明が終わりましたが、令和8年度事業実施計画につきまして、ご意見等のある方は発言をお願いします。

(植田市長)

対象範囲が多いので、教育委員の皆さん方もご意見があらうかと思えますけど、ご意見が出るまで、気になった点についてお聞きします。9ページに「地域文化伝統芸能保存活用」があつて、教育委員の皆さん方にも是非この機会にご意見をいただけたらと思うのは、実はジョン万の大河が来年から始まります。それにちなみ高知県が全市町村長や観光振興団体を集めて、高知県としてジョン万大河に向けた体制を作つて、県内の取組を支援する第1回の会議がありました。その中で室戸市は「鯨館」が位置づけられて、リニューアルをする方向で今動いています。今の鯨館とクジラ文化400年の捕鯨の歴史があるということもありますので、捕鯨とジョン万は、皆さんどんな関係があるのか見えてない部分もたくさんあらうかと思えます。今の鯨館に入館された方もいるのではないかと思います。もっとこれからの時代に合った鯨館のリニューアルに対して、この機会にご意見をいただけると非常にありがたいと思い、ご提案をさせていただきました。鯨館にたくさんの方々が入館してくれるように、今回のリニューアルで興味を持ってくれるような作りだとか紹介ができたらいいかと思います。400年の捕鯨の歴史の中で室戸の捕鯨は土佐藩も支援したというぐらいすごい歴史の背景があつて、当時は食からエネルギーというか、電気のない時代の蝋燭だとか鯨の油なんかを扱つて、いろんな形で支援されたようです。そのようなことが、地元の方もあまり知らないようなことなので、地元の小学生にもわかるような紹介をして、室戸の小学生はそんな歴史を学んでいることによって、室戸の捕鯨の歴史というのはこんなに誇れる歴史があるんですよみたいなことが言えたらいいかなと感じております。今回のジョン万の大河にかかる県の支援として、高知県東部の拠点の施設の1つとして鯨館を位置づけてくれていますので、教育委員の皆さんから、こんな風にリニューアルしたらどうかのご提案をいただけたら反映につなげたいです。内部では、お客さんを集める手段として、高知県ではないようなキッズコーナーを設けて、来てもらった子どもたちにクジラ文化を知ってもらうのはどうかといった意見の提案は出されてます。また、皆さんのご意見もいただけたらと思えますので、よろしくお願いします。

(川島委員)

小学生等の子どもたちに対して鯨館は難しすぎると思います。新しく VR もありましたが、利用できる人数が少ないし、団体では見れないです。ガラスの展示物や上に捕鯨台や砲台などがあって、統一感がないかなと思います。

(植田市長)

最近行きましたか。

(川島委員)

最近は行っていないですが、VR が入ってからは行っていますね。神輿とかもあったように思います。

(和泉委員)

鯨館は 1 回リニューアルしましたよね。リニューアルした時に前と比べて最新にはなっていたけれど鯨の説明をするブースがあって、私の感覚では素朴な形であった方がいいと感じました。良かったのは、備忘録の副読本みたいな鯨のお話みたいな本があって、それがすごく良かったです。あの本はまだあるのでしょうか。

(植田市長)

販売されていた本ですか。それとも備え付けですか。

(和泉委員)

そこに置いていた本です。誰かに紹介したくて、何冊かもらってきてあげました。リニューアルした時にどこをどう直して実際どうだったか初代の時から知っている人が良い案をくれるのではないかと思います。施設の中の音が、画面で聞いているけど部屋が独立していなかったように思います。

(植野委員)

画面が流れているみたいな、けれど通り道みたいなところだったような気がします。最近行っていないくてリニューアルでどうなっているかは分かりませんが。

(進行)

実施計画の中身について、何か質問等ないでしょうか。

(佃委員)

8 ページの部活動の地域展開の推進について、今どのくらい地域移行されているのか聞きたいです。

(正木課長)

野球、陸上、柔道、空手、バドミントンの 5 つが教育委員会の地域クラブとして認定をされていて、野球部はまだ動いていませんが、9 月から本格的に練習を開始することになっています。あとの 4 つは今まで地域で活動していた方がいましたので、それらを地域に移して引き続きやらせてもらっている状況です。

(佃委員)

野球に関してはどのくらい進んでいますか。

(正木課長)

保護者説明会も行いまして、入部届待ちの状態です。これまでも定期的にやっております、本格的な入部ではないですが、準備段階という事で大体 10 人位は練習に来てくれていると聞いています。

(進行)

他に、ご意見等ないでしょうか。

(和泉委員)

4 ページの教育研究所と教育支援センターのところで、今所長が一人で両方を担っていますが、今後、支援センターと分けてそれぞれが連携取りながらやっていくのでしょうか。

(松下教育次長兼学校教育課長)

現在、教育支援センター長を教育研究所長が兼ねている状態です。これを解消しないと業務量もありますし、具体的な関わりが手薄になってしまいますので、来年の4月からの確保に向けて、人を探している状態です。現在、支援センターに児童1人が通っていますし、研究所は学校訪問であったり、色々な事業を持っていますので、解消しないと厳しい状態です。

(和泉委員)

不登校の現状の話も後であると思いますが、支援センターに通えている子どもさんは良いですが、通えていない子どももいると思います。それは、どこの機関が支援していくのか、他の機関とも連携しないといけないと思います。今の所、その中心をどこがするかと言ったら教育研究所の所長がやっていくという事ですか。

(松下教育次長兼学校教育課長)

4 ページの(7)のところに「長期欠席児童生徒の状況把握」についてとありますが、これは研究所と支援センターが分かれた時に、研究所の業務として残っていた部分です。

しかし、長期欠席児童等の把握や支援については、支援センターの仕事であるということで、支援センター業務にしています。ただ、今センター長がいないので、研究所がその業務も持っている状態です。3日欠席調べについては、各校から不登校の傾向がある子どもが月何日休んでいるかの報告書があがってきます。そこでは、どうして休んでいるのか、どういった支援をしたのかをより詳しく書いていただくように今年度から変えていただきました。ただ、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどに関わっていただいているのですが、なかなか解消に至らない児童生徒も多いので、これらをどうしていくかというのが課題になっています。また、支援センターの近くの子どもは通えるが、仕事している親が羽根や吉良川、佐喜浜から市の中心部まで送ってくるのが難しい部分もあって、どうやって支援センターまで来るのかが課題ということもあり、支援センターへの通所は近年減っている状況にあります。

(和泉委員)

来年の4月までに人がいたら解消するということですね。分かりました。

(植野委員)

7 ページの(1)⑤奨学金制度の充実のところで、「本市に在住し就労する奨学支援返還者に交付金を交付し、若者の定住と就労の促進」とありますが、年間どれくらいの方が定住というか、室戸に戻って来ているのですか。

(正木課長)

昨年度の実績としては10名程度で、年間額の80%を補助金として交付しています。

(植野委員)

一昨年とかはどうですか。

(正木課長)

10名前後です。

(植野委員)

それは多い数字ですか。

(正木課長)

奨学金を借りられる方はたくさんいて、県外に行ったり等もありますが、基本的には、室戸に住民票を移して、室戸から通勤するとか室戸で働く方が対象になってきます。

(司会)

ご意見等なければ、次の議題に進みます。協議事項①令和8年度全国学力・学習状況調査結果について、事務局より説明をお願いします。

(田川主監)

(資料に沿って説明)

(司会)

事務局からの説明について、ご質問やご意見等ありましたらお願いします。

(植田市長)

委員の皆さんもご意見があらうかと思いますが、現状の説明からこの結果をどのように捉えられて、今後どうしていこうかという考えがありましたら、説明いただけたらありがたいです。

(田川主監)

結果として、一定数のスコアが平均を上回っていることから、小学校の場合は今の方向性で間違っていないだろうというところです。さらにブラッシュアップとして、各個人や組織で自分たちの知らない、より良い実践がなされている他の学校や他の地域の学びを積極的に取り入れて活かしていくというところです。

(植田市長)

ありがとうございます。もう一点、室戸市の場合子どもの数が少ないという背景もあって、優秀な子どもが1人いることによって成績が上がったり、成績の低い子どもがいることによって、平均数値の動きの変化があるような指摘を受けることがあります。令和8年度について、そうした背景はいかがでしょうか。

(田川主監)

小学校6年生は市内で41名と少なくなっていますが、どの学年にしても指導要領や学ぶ教科書は一緒ということで自分たちの指導には変わりがなく、どの子どもたちにもより学力が定着するように努めています。

(司会)

教育委員の方からのご意見等はないでしょうか。

(和泉委員)

市長が言われた児童の数が少ないことによる平均のことについてです。分析する時に、正答率は、どの位置の子どもが多いのでしょうか。

(田川主監)

学力的に厳しい状況をC層、D層と表すことがあります。D層の生徒が高校に上がってもなかなか厳しいということで、D層をいかに減らすかということが課題の1つでもあります。そのため

に、興味関心を引く授業あったり、個別最適な学びとして、一律の課題ではなくて、その子のゴール、これだったらできるというゴールを少しずつ積み重ねたりすることで最終ゴールに向かわせるように努めています。

(和泉委員)

小学校6年生は、統合中学校になる学年ですね。統合までに、各小学校、中学校でどんな力をつけて1つの学校になるのかというところで、そこへ至るまでの各中学校同士の話し合いが今後大事になると思います。小学校6年生のD層の子どもたちをどうやって上げていくかが課題になってくると思いました。学力向上に向けての4中学校学力分析会が開かれているので、そこでこれから詰めていくと思いますが、統合中学校の学力向上に向けての目安が見えてきたかなと感じました。

(川島委員)

この調査の対象は、公立小中学校全部なのか、参加する学校だけなのか全国という母数を教えて欲しいです。

(田川主監)

原則、公立は全て入っています。

(司会)

次に、協議事項②不登校の現状について、事務局から説明をお願いします。

(田川主監)

(資料に沿って説明)

(司会)

不登校の現状について、市長から何かご質問、ご意見等ありますでしょうか。

(植田市長)

この資料の図で、中学校の例えば令和3年と令和4年で、令和4年に新規の子どもさんが1人で継続が15人ということは、令和3年度の子どもたちが引き継いだ数なのかなという見方をしますが、そうした増減の背景を説明いただけたらと思います。一方で、令和8年度を見ると小中ともに3人の新規の不登校が発生していますが、こうした子ども達は1年で改善できるのか、継続となる状況かなどどのような背景か説明いただけたらありがたいです。

(田川主監)

令和3年、4年については、具体的な生徒名が把握できず、この人数がそのまま継続だったかは正確に申し上げることができません。ただ、令和2年3月に全国的にコロナでの休校が始まって、小中学校の不登校が増えたというところがあります。令和元年のコロナ前は不登校18万人でしたが、令和6年の調査で35万人と2倍近く不登校の児童生徒が増えています。小学校だけでみると5.5倍に増えています。そこには、生活リズムの乱れや皆で何かをやる楽しみや意欲の低下、コロナ禍における家庭内での緊張感やストレスが拡大したなどがあると考えられます。また、学校は無理して行かなくてもいいという社会的な意識の広がりや、コロナ以降広がってきたと捉えています。令和8年7月の新規中学生3名は名前も把握していますが、各々の要因があり、今後については、申し上げにくい状況にあります。

(川島委員)

4ページの魅力ある学校づくり、新たな不登校を発生させないという取組もありますが、実際

いろいろな理由で不登校の方がいると思います。学校に来ることが善で、来ないことが悪という考えではなくて、学校に来られない一人ひとりの理由に対して何ができるのか。その支援をもっと深めていけることができたらと感じています。先程、教育支援センターの話も出ましたが、今の教育方針に当てはめるのではなく、その理由に対してどう支援していくかが大事ではないかと思います。

(田川主監)

学校へ来て欲しい思いはありますが、ICTが進んできて、いつでもどこでも、その子らしく学びができたらというところです。その子が自分らしく生きていくために、適切な学びの場を一緒に考えていくことが重要であると考えております。

(佃委員)

令和8年度で11人の不登校のうち、1名が教育支援センターに通っていますが、他の子どもたちは日中家庭でどのように過ごしているのか、家族がいるのかを知りたいです。

(田川主監)

家族のどなたかがいらっしゃったり、中学生については、ご家族がいる場合も、いない場合もあります。

(佃委員)

羽根や佐喜浜からは遠いですね。その中で通えるなら教育支援センターに通いたいとかの意見はないですか。

(田川主監)

令和8年7月時点では、希望の声を確認できておりません。

(佃委員)

できるだけ1人で過ごす時間とかを無くすためにも、遠くからでも教育支援センターに通えるような環境づくりができたらと思います。

(植野委員)

不登校の子どもさんは、長い夏休みに入ったら、閉庁日は先生達もお休みなので、休みに入るまでの期間など、電話で確認とかの接触はないですか。

(田川主監)

休みに入る前と学校が始まる前には連絡をするようにしています。

(植野委員)

休み明けなので、行きたくないとかあると思いますが、元々行っていない子の場合はあまり変わらないですか。

(田川主監)

1学期末の懇談の時に保護者と学校側の接点があります。長期休暇が明ける2学期スタート前のアプローチが重要だと学校現場としても認識しています。

(和泉委員)

今の質問と重なりますが、1名のみが教育支援センターに来ていて、他の子どもさんは家でどのような過ごし方をしているのでしょうか。把握できるところがあったら教えてください。また、子どもが家にいるということは、家に大人がいるのか。室戸市では、そういう家庭への支援について、学校だけではとてもできない時は、教育支援センターがない場合も含めて、どのような関連

機関に相談して、子どもがその子らしく家庭も辛くないような支援のあり方があるのか教えてください。

(田川主監)

1 日どのように過ごしているかについては、正確にはお答えしづらいですが、一部の子どもはゲームをしたり、家の人と買い物に行ったり等の話を聞いています。家庭支援については、日中は授業をしないといけないので、学校の担任が支援するのは限りがあります。様々な角度からアプローチしていくために、スクールソーシャルワーカーの先生に日中、家庭訪問に行っていたり、保護者の相談に乗っていただいたりしています。また、こども子育て支援課の方々と連携し、家庭訪問をしていただくこともあります。子どもたちの状況や食べるものに困っていないか等の報告をいただく等の対応もしております。

(百田教育長)

2 ページの表ですが、1 学期で10 日以上病気等を除く欠席者の数なので、最終的に3 学期末には30 日で判断されますので、これは厳しめに日数を出していただいています。タブレットで子どもたちとやり取りしてくれている学校もございますし、それぞれの家庭の状況によって、スクールソーシャルワーカーが行ったり、福祉関係と一緒にしたり、そういった対応はしています。様々なご家庭の事情や本人の特性などもありますので、不登校は、ゼロにはならないと思います。結果的に3 学期の終わりに29 日の欠席なら不登校の数には入らないですが、30 日なら入ります。現場の先生にしてみれば29 日でも30 日でも同じです。不登校には長いスタンスでその子の人生の支援が必要です。

現在、各学校3 日以上欠席調べをしており、不登校児童生徒がいないところもございますが、私共の捉え方はいつでも不登校の子どもたちは出る可能性があるというところで、それぞれ先生方が苦勞しながらやっているのが現状で、なかなかゴールが見えないところではございます。

(司会)

次に協議事項③の学校給食センターの再編について、事務局より説明をお願いします。

(松下教育次長兼学校教育課長)

(資料に沿って説明)

(司会)

事務局の説明につきまして、ご意見をいただきたいですが、いかがでしょうか。

(植野委員)

西部給食センターは新しい建物だと思いますが、使わなくなった後何か利用する案は出ていますか。

(松下教育次長兼学校教育課長)

西部給食センターは下が土間なので、そのまま使えるような施設ではないとは考えています。場所的には浸水区域外の良いところにあるので、活用しようとしたら中の設備等を全部除いたうえで改修がいると思います。

(植野委員)

通る道もきれいにできましたよね。

(松下教育次長兼学校教育課長)

10 年位経っています。今後、中の機材や建物に多少の直しが必要になって来ると考えています。

(和泉委員)

法律的に100食以下とかの決まりはないでしょうか。

(松下教育次長兼学校教育課長)

はい。ないです。

(植田市長)

今説明のあった中部学校給食センターにまとめたいという意向が、地域住民の方や学校関係者の方にだんだん明るみなってくると、色々なところから意見が出てくると思います。今の時点で、教育委員の皆さんが中部学校給食センターに統合することについて、どのような問題がでてくるのかや効率化を進めていくべきじゃないかというような意向が伺えたら、担当課も今後の進め方が見えてくると思います。新しい市長が整備していくことになると思いますが、今後のために、ご意見をいただけたらと思います。

(佃委員)

規模的に全部まとめるというのは可能なのですか。

(植野委員)

今は100以下だったら、給食ができなくてお弁当になっていると聞きましたがどうですか。

(松下教育次長兼学校教育課長)

回転する釜がありますが、調理器具の中にある程度の食数がないと使えないです。スイッチを変えたら火力が落ちるとかの機能もあるらしいですが、少なかった時に温度が計れないことや焦げるといった恐れがあるので、基本的には100食以下の場合は調理はしないことになっています。今後、100食を切ります。できるかもしれませんが、量があまりにも少なすぎる点と、これによって調理員が最低5人はいるのではないかということから考えて、人件費だけでも結構かかります。また、10年経っていますので、今後改修もしないといけないこともあります。中部学校給食センターは600食程度は作れる機能があります。少し人員を増やせば、中部でまとめて作れるのではないかと思います。

(植野委員)

羽根と吉良川の配送車の手配はできるのですか。

(和泉委員)

設備的にも配送時間的にもそれほど不便を各学校にかける訳ではないということですか。

(松下教育次長兼学校教育課長)

今は、スクールバスの運転手が運んでくれています。それほど大きな車もいらないですし、時間帯もスクールバス送迎の朝晩ではないですので、大丈夫だと思います。

(佃委員)

経費的に見ても1カ所にまとめる方がいいのですか。

(松下教育次長兼学校教育課長)

そうですね。

(司会)

次の協議事項④放課後子ども教室について、事務局より説明をお願いします。

(正木課長)

(資料に沿って説明)

(司会)

放課後子ども教室について、何かご意見、ご質問等ないでしょうか。

(植野委員)

利用者の回答数ですが、何人中の何人回答か分かれば教えてください。

(正木課長)

兄弟で来られている方もいますので、全部で43名の方にアンケートを配っていますが、そのうち回答は17名で回収率は40%です。なんとかお願いはしていましたが、書いてくれたのが40%でした。

(佃委員)

時間帯の不満が2名ということですが、今回羽根は夏休みに午前中しか開かれていないですよ。吉良川は要望等はないですか。

(正木課長)

羽根のアンケート結果の中では、特段羽根の方からの意見はありませんでした。吉良川の方の自由記載の内容として、吉良川は夏休み午前中の半日だけでしたが、できたら午後もやってもらいたいという声もいただいております。コーディネーター、支援員の時間帯、人数的なものもあり、現状1日フルに支援員を配置することが厳しい状況ではあります。その辺りが課題とは思っています。

(佃委員)

今だけではなくて、子育て世代の方は、室戸市で子どもを育てたいという時に、需要があるからとか、アンケート結果がこうだからこれで行くではなくて、これから室戸市で生活していこうという人のために環境を整えて欲しいと思います。夏休みの午前中だけしかやっていないとなると、仕事を正社員ではとても難しいですし、もう少し子育て世代に配慮した環境づくりを考えて欲しいです。

(正木課長)

おっしゃるとおりで、平日夏休みであっても親御さんがお仕事をしておりますので、そういった方への配慮が足りない課題はあると思っています。

(和泉委員)

放課後子ども教室の夏休みは、佐喜浜では10時から5時までほぼ毎日やっています。夏のお盆の前の1週間は閉めて、後の日はやっているの、コーディネーターや構成員の人によって違うのではないかと思います。

(正木課長)

佐喜浜につきましては、ほぼ平日は10時から夕方5時までやっていただいています。ただ、羽根と吉良川が午前中と半日といったような対応になっていますので、人的支援の強化等のお願いをして、時間を延ばしてもらえるかといったような話になってくると思います。佐喜浜は1日やっているのに羽根、吉良川は半日という不公平感もありますので、その辺りは改善の必要があると思います。

(和泉委員)

8月上旬にやすらぎで、社会福祉協議会主催の民生委員が集まって、室戸の子どものイベントがありました。佐喜浜では今まで個人で行っていましたが、コーディネーターが民生委員を始めた

いう事もあり、バスで子どもも乗せて行って1日過ごしてきたようですが、あのイベントが良かったと言っていた。そういう機会があつて、希望があつたら、他の地域もどうかと思いました。が、放課後子ども教室は各地域単体ですよね。各地域のコーディネーターが集まって、こんな催しがあつて、バスも出るから行ってみようとかかそういった話はないですね。

(正木課長)

佐喜浜は、コーディネーターが民生委員ということもあり、連携を図ることができ、今回のイベントに行ったと思います。また、佐喜浜では、夏休みに図書館に来るイベントも用意していますが、その辺りが、羽根、吉良川ではできていないところがあります。

(和泉委員)

互いにコーディネーターが交流して、こんなことをしているとか、こんなイベントがある、図書館にも行っている、ジオからも講師を呼ぶなど、そういう良い所を他の地区とも交流し合えたらいいのではないのでしょうか。半日でも支援員の人数も全員いなくても良いよなど融通が利くところも出てきやすいと思うので、情報交換の場を持ってみたらどうでしょうか。

(正木課長)

全部の地域の放課後子ども教室の皆さんに集まってもらって意見交換会を検討してまいります。

(川島委員)

アンケート結果が43名中17名で、皆さんの話を聞いていたら、地域によって良い悪いが違って来たと思いますが、平均の満足度が4点以上と高いですが、地域によって満足度の差がありますか。

(正木課長)

満足度が一番高いのは佐喜浜です。羽根は5点とか付けてくれています。一番低いのは吉良川で平均で3.8くらいになります。佐喜浜がすごく良いという評価が多かったというのが正直なところ。

(和泉委員)

佐喜浜も夏休みに子どもが1日中いるわけではないです。貝殻細工があつたらその時だけ行きますという子どもさんもいます。佐喜浜小学校には23名児童がいますが、22名が放課後子ども教室に登録しています。貝殻の時は11名希望を出していたけど来たのは7人で、来てからもすぐ帰ったりするので1日いるわけではないです。目玉があることで、それを楽しみに行って、子ども同士で遊ぶとかになるので、やはり交流したら気が付くところがあるのではないのでしょうか。

(佃委員)

佐喜浜ではこんなことをしているなどの話し合いや提案とかができたら良いのではないかと思います。

(和泉委員)

支援員の人数が違うのではないのでしょうか。

(正木課長)

佐喜浜5名、吉良川と羽根は4名です。

(和泉委員)

定員はないですね。

(正木課長)

定員はないです。人が多ければ多いほど助かりますが、支援員をやってくれる方がいないです。
(植野委員)

募集は随時やっていますか。どういう形で、どこかに張り紙とかしていますか。

(正木課長)

ハローワークを通じて募集しています。お知り合いの方や口コミでやりたい方がいたら生涯学習課に言っていただけたら。

(植野委員)

公民館の実際にやっているところに貼ったらどうでしょうか。支払いで来た方が目についたりすると思うので。

(正木課長)

放課後子ども教室の場合、時間が短くて午後3時から5時くらいで生業にはならないです。本当に本格的に就職する人ではなくて、空いた時間の方に限定されてしまうので、その辺りも難しい部分ではあります。

(和泉委員)

10. 良くなった点の職員の対応のパーセントが高くなっていますが、これは、面接したことが自分たちの振り返りになると思いました。問題があった時に、1回募集をリセットして、あれも支援員の意識改革になったと思います。生涯学習課が初年度の4、5月に面談にいかれましたよね。それで話をすることによって、自分らも聞いてもらえたという点もある気がします。行事とか、子どもの様子や満足度など、そこで働く人も自らの生きがいや楽しみになると思いました。人数確保もありますが、来年度どうしますかみたいな面談を1月か2月にやったらどうかと思います。

(正木課長)

年度初めと終わりには面談しようと思っています。年度当初の面談は良かったと伺いました。

(百田教育長)

放課後子ども教室も学童も、委員さんがおっしゃるように保護者が仕事に安心して行けるそんなところを作らないといけないと思います。人がなかなかいないという状況で、待遇とか含めて室戸で子育てしようという時に大きな課題があると思います。子育て世代が室戸に来やすいというところでは非常に大きなポイントやと思っています。

(和泉委員)

室戸にないもので、これからあったらいいものは支援が必要な子どもさんの放課後等デイサービスです。民間であつたり、他の市町村であつたりあちこちにできています。室戸で子育てする時に、やっぱり特別な支援の必要なお子さんの放課後等デイがこれからまた出来たら良いなと思います。

(植田市長)

具体的にどんなサービスですか。

(和泉委員)

田野町にぷらうらんどというところがあるんです。室戸市からも何年も前から保育園を休んでそこに通ったりして発達障害や特性がある子どもさんの小学校へ就学する前に身に付けることを訓練するところが中芸にあります。室戸からかなり通っていますよね。

(辻こども子育て支援課長)

はい。通っています。

(和泉委員)

迎えに来てくれますよね。

(辻こども子育て支援課長)

はい。バスが保育園まで来てくれます。

(和泉委員)

ずっと前からありましたが、室戸にはそういった療育のサービスがありませんでした。就学前に身に付けたらいいことをぷらうらんどに行ってみて、これ良いなと思いました。小学校になったら室戸にそういったサービスがないから、室戸からわざわざ高知市の民間の所へ行ったりした人もいました。だから、放課後こども教室もあり、学童もあり、放課後等デイサービスにも通える施設があったら、わざわざ中芸まで行かなくていいので、こんな施設が室戸市にあったら良いと思いました。

(植田市長)

ありがとうございました。

(司会)

本日の協議事項は以上で終了しましたが、その他になにかご意見、ご質問等ありますでしょうか。

(植田市長)

(挨拶)

(司会)

以上を持ちまして、令和8年度第1回総合教育会議を終了させていただきます。皆さんありがとうございました。